

安全だより

無事故・無災害を目指して

2017年度(平成29年度)第4号

発行日：2018. 1. 29

発行：福山市新涯町二丁目21番30号

公益社団法人福山市シルバー人材センター

安全委員会

TEL (084) 953-5222

FAX (084) 953-5233

安全対策重点項目

[2月] 安全意識改革・・・「安全就業基準」を確認し、ルールを遵守する。

[3月] 機械器具点検・・・作業前には作業機械・器具の点検整備を確実にを行う。

事故発生状況について

前号発行後(11月27日)、事故は発生しておりません。現時点での事故等件数は、傷害事故8件、賠償事故7件、車両事故2件、熱中症事案3件の合計20件となっています。

傷害、賠償事故件数の比較では、今年度15件に対し、前年同月は17件、また、過去5年間の平均件数は18.4件となっており、いずれもわずかながら下回っている状況となっています。

傷害事故の主な発生要因は、転落事故、転倒事故が37.9%、就業途上帰途の事故が36.7%となっており、この二つの要因で全体の約75%を占めています。

一方で、賠償事故の主な要因としては、刈払機による飛散事故が44.4%、トリマー・剪定鋏による切断事故が20.0%、物を落下・接触させたことによる破損事故が17.8%となっており、全体の80%強を占めています。

事故の傾向を認識し、危険予知を行うとともに、意識的に対策を講じることで、多くの場合、事故は防げると思います。会員一人ひとりが、自分のため、仲間のため、家族のためにも事故に遭わない、起こさないとの気持ちを持ち、事故ゼロに向けて、一丸となって取り組んでいきましょう。

交通安全講習会について

昨年12月7日、8日に「年末交通事故防止県民総ぐるみ運動」期間に合わせ、福山東、西警察署の協力のもと、本部事務所と西部市民センターで交通安全講習会を開催し、83人が参加されました。

本部事務所での講習会では、ドライブシュミレーター(運転模擬機)を使用し、事故の模擬体験を通して交通事故の予防について学ぶことができました。

今年度は就業途上・帰途の事故が2件発生しており、昨年度の3件、過去5年間の平均件数の4.6件と比べ、わずかながら下回っておりますが、引き続き、事故に遭わない、起こさないよう、交通安全を心掛けましょう。なお、北部エリアや未受講の会員を対象に、次のとおり、交通安全講習会を開催しますので、お誘い合わせのうえ、ご参加くださいますよう、お知らせします。

[交通安全講習会]

日 時	2月14日(水) 13:30~14:30
場 所	神辺支所・第2会議室
申込方法	電話等でお申し込みください
	申込先: 北部事務所(963-9555)
	※定員はもうけません。

今時期の安全対策

(1) 転倒予防について

連日、寒い日が続き、地面が凍結する、身体もこわばる等、転倒しやすい状況となっています。

高齢者が転倒するのは、若い時に比べ、足腰、腹筋等の筋力低下と共に、視野も狭くなり、危険予知、瞬時の対応能力の減退していることが大きな原因であると考えられています。

また、「転ばないように」と考え過ぎるあまり、目線が下を向き、腕の振りが小さく、歩幅が狭く、つま先から歩みを進める傾向が高く、このような歩き方では、視界が狭いため人とぶつかったり、つま先が上がっていないため、わずかな段差でもつまずいたりして転んでしまうとのこと。

「転倒→骨折」は、寝たきりの第 2 の原因とも云われており、転ばないための身体づくりが必要です。適度なウォーキングは転倒予防や骨粗しょう症予防にも有効と云われていますので、交通事故に気をつけて、身体に無理がない程度に実践してみたいかがでしょうか。

(2) 入浴中の事故予防について

みなさんは交通事故死者数より家庭で入浴中の溺死者数の方が多きことをご存じでしょうか。

平成 27 年度の全国統計では、交通事故死者数 4,117 人に対し、家庭の浴槽での溺死者数は 4,804 人となっています。また、溺死者数のうち高齢者(65 歳以上)が約 9 割を占めており、特に注意が必要です。

また、溺死を含む入浴中の事故死は、冬季に

多く発生している傾向が見られ、12 月から 2 月にかけて、年間の事故数全体の約 5 割が発生しています。

冬季の入浴中の事故は、「ヒートショック」が要因ではないかと云われています。

ヒートショックとは、温かい部屋から寒い部屋への移動などによる急激な温度の変化によって血圧が上下に大きく変動することがきっかけで起こる健康被害のことです。入浴時には寒い脱衣所で衣服を脱ぐと急激に体表面全体の温度が下がり、この寒冷刺激により血圧が急激に上がります。一度急上昇した血圧は、浴室の温かい湯につかると血管が拡張して、反対に急激に低下してしまいます。この急激な血圧上下で失神を起こし、浴室で溺れて亡くなるケースは「入浴中急死」の典型例と言えます。

安心に入浴する 6 つのポイント

- ①入浴前に脱衣所や浴室を暖めましょう。
- ②温度は 41 度以下、湯に漬かる時間は 10 分までを目安にしましょう。
- ③浴槽から急に立ち上がらないようにしましょう。
- ④アルコールが抜けるまで、また、食後すぐの入浴は控えましょう。
- ⑤精神安定剤、睡眠薬などの服用後入浴は危険ですので注意しましょう。
- ⑥入浴する前に同居者に一声掛けて、同居者は、いつもより入浴時間が長いときには入浴者に声掛けをしましょう。